

地域伝承を活かしたまちづくり

空海伝説の里 宝立

珠洲市宝立公民館

1 はじめに

宝立町は珠洲市の南東部にあり、能登町に接しております。現在、宝立町は人口減少と少子・高齢化が急激に進んでいます。このような状況の中で、この取り組みを始めることになったのは、宝立町区長会において、宝立町を活性化するには何をしたらよいかを協議していた折り、平成二十八年のはじめ、市から、「まちづくりをめざした活動をしてほしい。」との要請があり、区長会の思いと市の要請が一致したからです。

そこで区長会では、公民館とともに町づくりの方策について協議し、宝立町にある空海（弘法大師）伝説を活かした町づくりに取り組むことにしました。

2 取り組みのねらい

宝立町には、見附島という景勝地があります。この島の名前には、空海が海路、佐渡から当地にたどり着いたときに見つけた島という言葉が伝わっています。このほかに、空海伝説が数多く伝承されてきました。私たちは取り組みのねらいを二つに絞りました。

一つは、伝えられてきた空海伝説を収集し、後世に伝えること。もう一つは、伝説集やマップを作成し、空海伝説を宝立町の活性化に活かすこととしました。



見附島

3 取り組みの内容

(1) 研究会の設立

まず、平成二十八年五月、区長をはじめ、各種団体に呼びかけて、「宝立町空海伝説研究会」を立ち上げました。会長には区長会会長、指導・助言者には民俗研究家の西山郷史氏にお願いし、公民館を事務局として、町全体で

進めていくことにしました。なお、二十九年度からは、会の名称を「空海伝説活用実行委員会」に変更しました。

(2) 研修会の開催

まず会員の研修が必要と考え、空海や法住寺、伝説収集の方法について学ぶ会を開催しました。

第一回「空海と法住寺」

法住寺住職 佐伯 快紹氏

第二回「伝説の収集の仕方」

西勝寺住職 西山 郷史氏

(3) 発足当初の取り組み

① 伝説の収集（著作、聞き取り）

② 伝説集の作成



法住寺（山門）

- ③ 伝説マップの作成
- ④ 「空海伝説の道」設定
- ⑤ 「空海伝説の道」の案内看板設置
- ⑥ 「空海伝説だより」掲載（公民館だより）

収集した伝説を伝説集にまとめるとともに、伝説の地を探訪できるマップを作成しました。また、空海が五銛杵を探し出すために歩いた道を「空海伝説の道」として設定するとともに、案内看板を設置し探訪しやすくしました。そして、毎月の公民館だよりに「空海伝説だより」のコラムを設けて、委員会の活動を発信しました。

(4) 開始後の取り組み

開始後、新たな事業も進めていきました。

① 袈裟掛けの松と啼き桜の植樹
枯れた袈裟掛けの松と啼き桜の



伝説集とマップ



空海伝説だより
(公民館だより)



- ② 「空海伝説の道」の愛称公募
空海伝説の道にふさわしい愛称を公募し、「吼木古道」という名前をつけました。
- ③ 木材チップ敷き(山道)
滑りやすい参道に木材チップを敷きました。
- ④ 植樹標柱の設置(袈裟掛けの松、啼き桜)
- ⑤ 吼木古道案内標柱設置
- ⑥ 空海立像・祠設置(見附園地)
吼木古道の出発点である見附海岸に、珠洲焼で作った空海像を納めた祠を建てました。
- ⑦ お月見の会開催(見附島)
見附島は昔から月見の名所と伝えられ、別名「見月島」ともいわれましたが、その海岸で仲秋の名月の日に「お月見の会」を



案内看板の設置

- ⑧ 吼木古道を歩く会開催
多くの人に空海伝説を知っていただくために、毎年「吼木古道を歩く会」を開催しています。
- ⑨ 法住寺・曾の坊の滝の道整備
空海が曾の坊の滝で修行をするために通った修行の道を整備しました。

4 宝立公民館の担当業務

- 館長(非常勤)と主事(常勤)で実行委員会の事務局を担当し、次の業務を行っています。
- 【企画】 活動の企画・提案
- 【連絡】 会員への連絡・案内
- 【交渉】 関係団体への依頼・交渉
- 【記録】 記録写真・会議録作成
- 【会計】 活動費会計

5 成果と今後の課題

- (1) 成果
 - ① 伝説集とマップを発行し、空海伝説を後世に残すことができました。
 - ② 枯死した由緒ある木の代わりに新しい木を植樹し、後世に伝えることができました。
 - ③ 伝説にふれる道を設定・整備して、多くの人に伝説にふれてもらえるようになりました。
 - ④ 歩こう会やお月見会を継続して開催し、伝説に親しんでもらえるようにしました。
 - ⑤ 空海伝説が教材化され、小中学生も伝説に関心を持つようになってきました。
 - ⑥ 空海伝説を誇りに思う町民が増えてきたように感じています。
- (2) 今後の課題
 - ① 吼木古道の維持・管理を継続的に行う必要があります。(除草、倒木処理、看板修理など)
 - ② 会員には高齢者が多く、活動を継続して行くには後継者探しが必要です。
 - ③ 今後は伝説を町外へも積極的に発信し、来訪者を増やしていかなければと考えています。
 - ④ 町が活性化するような、伝説を活用した新しい事業を企画していくことが求められます。

6 おわりに

この事業を始めた頃は不安も感じましたが、この四年間、委員同

士で知恵を出し合い、共に活動していくうちに、少しずつ道筋が見えてきて楽しく活動することができました。今後もこの活動を継続し、町の活性化の一助になれるよう頑張りたいと思っています。



袈裟掛けの松植樹



吼木古道の整備作業